

## 教育施設の地域への回帰

- ・ 幼保小中高大、幅広く考えている。
- ・ 町村合併。異なるコミュニティが無理やりひとつに。そもそも隣接する集落同士は仲が悪いもの。農村と漁村の合併などもあった。子供たちは簡単に仲良くなる。のにつられて大人も。とか。
- ・ 復活させる意識があるところでは休校。統合を進めたいところでは廃校。
- ・ 4000校の廃校舎があって、7割は活用されている。
- ・ 自治体、教育委員会の体質による。
- ・ 学校をなくして、タワーマンション建てて、人口が増えて、学校が必要に。どうしょ？
- ・ 元学校だから子供の姿があってほしい。が、子供が来て活動が見えるのは全体の1割。
- ・ 高齢者施設になっていく例も多い。
- ・ 学校を持たない「校区」が増えていく。移住のハードルにもなる。
- ・ 校区、行政、サービス、いろいろなものがひとつのスケールに重なっていたのが、それぞれ「仕方ない」スケールに再編成されて、ばらばらになってしまっている。
- ・ 残すべき価値があるのか？昭和40~50年あたりはRC3階建最低基準で建てられたもの。愛、は、ないよね。
- ・ 現況として。通学距離、バスで一時間ならいいとなった。10キロ以上もしようがないと。
- ・ 統廃合の際、閉校と、その後の活用の議論を同時にしないとだめ。時間がたつと・・・。
- ・ 閉校前から閉校後の議論が出きればそこに先生方がいるので学校的な存続ができる。
- ・ 間があくと愛着も薄れ、学校ではなくなってしまう。
- ・ 閉校直前の学校は生徒一人当たり掃除面積が過大に。近所の高齢者が掃除してくれたり。
- ・ 参考 HP：まちむら交流機構・廃校リニューアル 50 選
- ・ 学校機能を残す場合も、よしもとクリエイティブカレッジだとか、「今の学校」になる。
- ・ 秋葉原中学校 → カフェ、居酒屋・・・3331 arts chiyoda
- ・ 明治時代の学校は地盤のいい、一番いいところ建っており、防災拠点になる。
- ・ 放課後の子供たちの居場所、婦人部の加工場、料理、塾・・・新しい風景。
- ・ 広島県川根地区 川根振興協議会 撤退する農協の店舗やガソリンスタンドを譲り受けて経営、宿泊施設、若者定住住宅、地域の生活交通など、過疎高齢化にむけて、「自分たちの地域は自分たちの手で」を標榜する住民自治組織。代表者辻駒さん。
- ・ 学校を考えるポイント①用途機能、②利用圏域、③運営主体、④建築に残す価値があるか。
- ・ 学校の転用は、使いやすいところから少しずつ使いつまづ使い始めること。
- ・ やりたいことを出し合うことから。

- ・薪ストーブのある場所＝人が集まる場所。
- ・お葬式をする！地域で見送りたい。地域にお金を落とせる。結婚式、同窓会なども。ゲストハウス。帰省時の利用。里帰り先。
- ・日常的使用と、イベント時の使用。簡易に自分たちでさまざまな規模に間仕切れるようにユニット化した壁をつくっておく。天幕も。→ 冬の暖房
- ・佐那河内中学後地。「集約」？「分散」？
- ・跡地単独で考えると可能性が狭まる。村内の空き施設や機能の過不足など俯瞰して、そのなかでの跡地の位置づけを考える。役場新庁舎も。
- ・来年度村の「振興計画」を策定する。いろんな立場の人に入ってもらって全体を考える。
- ・建築的な価値の○×はどうやって合意形成するのか？壊すのか、壊してどうするのか、セットで考える。
- ・雇用を捨て、教育のために下りてくるお金を捨ててまで、廃校にしている。
- ・かつて老人ホームは地域にとって迷惑施設だった。高齢化して自分で使うイメージができてきて、反対は無くなった。
- ・かつて役場は結婚式場でもあった！
- ・地域の中でまわそう。宴会も地元でしょう。